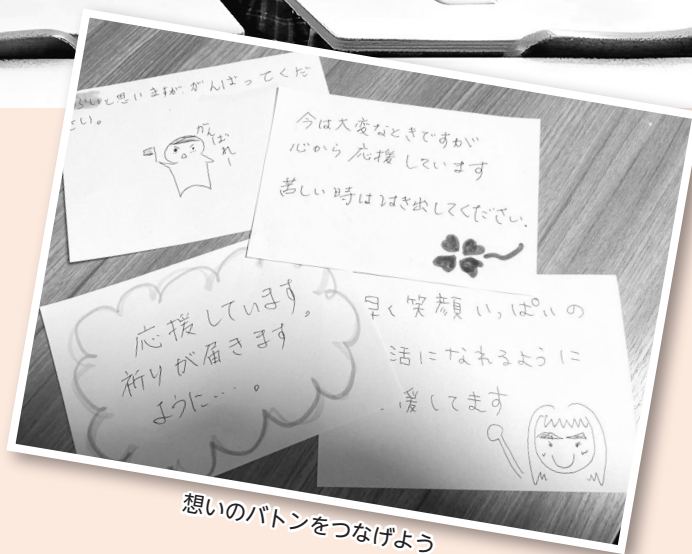


生涯学習やまがた

ボランティアサークル「3peace」の皆さん



子どもたちとのふれあい活動



想いのバトンをつなげよう

CONTENTS

- ② 特集
学校を核とした地域づくり、地域とともにある学校
～学校と地域の連携・協働 (廣瀬 隆人 氏)
- ⑥ あなた やまがた たからびと②
加藤由美さん (山形市)
- ⑦ このまちに注目！
つや姫ヴィラージュ
ボランティアサークル「3peace」
- ⑧ Information
4 施設合同企画、庭園と抹茶を楽しむ会、第11回洗心庵写真コンテスト、
山形県地域づくり実践交流集会

ボランティアサークル 「3peace」

令和2年3月に、ボランティアが身近にあるまちにしたいと考え東根市で設立しました。現在高校生20名、中学生2名の計22名で地域イベント等でのボランティアを行っています。数字の「3」は手で表すと手話の指文字で「わ」を意味します。ボランティア活動をすることで、人の「環」と喜びの「輪」を広めていくとともに、平和の「わ」を広げていきたいという思いが込められています。「子どもたちとのふれあい活動」では、子どもたちの成長に寄り添うことができる喜びを感じながら活動しています！

→関連記事はP.7へ

学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組みことができるコミュニティ・スクール。そして地域全体で子どもたちの学びや成長を支える地域学校協働活動。学校と地域の連携・協働について、前号に引き続き廣瀬隆人氏より寄稿していただきました。



前号はこちらから！

学校を核とした地域づくり、地域とともにある学校と地域の連携・協働

一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事 廣瀬隆人氏

今回は、山形市内の学校を核とした地域づくりの実践を見ていこう。山形市立第一小学校の場合、学校運営協議会を設置するとともに、地域学校協働活動推進員を配置している。

地域学校協働本部という名称は用いていないが、学校運営協議会そのものが地域学校協働活動の実働組織として機能している。無理に同種の2つの会議を立ち上げることはせず、学校運営協議会が地域学校協働本部を包摂する形で機能している。あえて言うならば、学校運営協議会の幹事会が協働本部そのものとして機能している事例である。

今回は、山形市立第一小学校の地域学校協働活動推進員の堀川敬子さんのインタビューを中心に事例を紹介する。

1 山形市立第一小学校の学校運営協議会と地域学校協働活動推進員

堀川さんは天童市出身、天童NP O支援サロンの立ち上げと運営に関わるなど、早い時期から市民活動に携わってきた。結婚により山形市民となった後も、遊学館（山形県生涯学習センター、山形県男女共同参画センター）の各種講座を修了し、現在、講師としても活動中。子育ては第一地区というコミュニティで過ごし、第一小学校のPTA（奨学会※1）拡大評議員を務めた。現在は民生委員・児童委員を務め、そして第一小学校の学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員である。

そんな豊富な経験と人脈を持つ地

域人材である堀川さんによると、第一小学校の運営協議会は、地区内の中央公民館長や地区社会福祉協議会の会長、自治会役員経験者など地域を熟知した方に加え、PTAの元役員を中心にした実際に活動を展開する幹事などによって構成されている（図1）。

その幹事の一人が堀川さんである。幹事は地域と学校にかかわる活動を実際に行う実働組織である。そこでは、教頭や教務主任を含めグループLINEを利用して連絡を取り合い、学校と情報を共有する。（堀川さん

は熱心なDX推進論者でもある。）学校運営協議会ができてから、学校とPTAで実施していた既存の事業の中から、地域と一緒に行う方が効果的であると思われる事業を、地域学校協働活動として位置づけた。新規事業を起すことではなく、既存のPTA事業や学校の教育活動の中から地域づくりとして意味のあるものが、注

山形市立第一小学校 学校運営協議会委員及び組織		令和5年4月現在
役員	氏名	所属等
会長		第一地区社会福祉協議会会長
公民館代表		中央公民館 館長
地域代表		前第一地区自治推進委員長 学童保育運営協議会会長
幹事長		地域代表（元奨学会会長）
幹事		地域代表（元奨学会会長）
幹事		地域代表・民生児童委員 （地域学校協働活動推進員）
幹事		地域代表（元母親委員長）
学校代表		校長

※具体的な事業の際は、委員及び有識者、有志による専門部会を置く

事務局	
事務局長	教頭
事務局	事務総括
事務局	教務主任

これまでの取組（参加者の声）

先生方から
地域学校協働活動推進員のコーディネートで、地域の方向性として、様々な場面に巻き込まれた。様々な場面の意思を共有して、その共有も重要と感じました。「採み期せ」をもちょうりしたいです。また、いつでもお声がけ下さいませ！

いちサポから
楽しいひとときを有り難うございました。子供達の反応は可愛くて、様々な場面に巻き込まれた。様々な場面の意思を共有して、その共有も重要と感じました。「採み期せ」をもちょうりしたいです。また、いつでもお声がけ下さいませ！

児童方から
茶道、書道、発達の先生を見つけてくださり、とてもありがたかったです。習字は、楽しかったです。特に、2回した茶道は、作法やお茶の点で、ふくよかたみ方を覚えることができました。お茶の時間があつたら、またやりたいです。

いちサポから
先生達とのつながりとして、採み期からはじまり、校内をぐるぐる一周しました。各学年やクラスでの自分たちで採み期を、採み期をふくよかたみ方を覚えることができました。採み期をふくよかたみ方を覚えることができました。採み期をふくよかたみ方を覚えることができました。

地域方から
この秋、赤い羽根共同募金並びに第一地区社会福祉協議会のご支援を頂き「いちサポだよ」No.1を発行することができました。地域住民として子ども達の成長を身近なところで見守り、つなげることが出来ていることをとても嬉しく思います。小学生らしい学びは大にになり、私達も学びを得るといえます。人とつながり関わっていくことで、お互いに協働し協力しながら第一地区の明るい未来を築けることを願っています。

いちサポ 募集中!

「子ども達を見守りながら健康増進」
ロング仲間ウォーキング
いちサポメンバー募集

今年度から運営（土曜日と木曜日）給食後30分以内（約15分）のウォーキングの幹事を地域学校協働活動の一環として「いちサポ」(山一小学一地区)をつなぐボランティア(参加者)を募集しています。これまで地域にはいろいろな活動があり、保護者のみなさんにも参加してきました。保護者のみなさんで「いちサポ」の幹事を担当して、子ども達の成長を身近なところで見守り、つなげることが出来ていることをとても嬉しく思います。小学生らしい学びは大にになり、私達も学びを得るといえます。人とつながり関わっていくことで、お互いに協働し協力しながら第一地区の明るい未来を築けることを願っています。

※「いちサポ」パンフレットを付けてお申し込みください！パンフレットが学校へのポストカードになります。

＜応募期間＞ 学校のあり日
※ 応募期間 秋の収穫祭の期間
※ 応募内容 ① 児童生活の見守り ② 元気なあいさつ
※ 「いちサポ」パンフレットを付けてお申し込みください！パンフレットが学校へのポストカードになります。

＜応募先＞
※ 1日だけでも構いません。【事務局のお申込み先】
※ 学校から、児童生活の推進員、担任先生にご連絡ください。
※ 応募先 赤い羽根共同募金、赤い羽根共同募金事務局、赤い羽根共同募金事務局

※ 応募先 赤い羽根共同募金、赤い羽根共同募金事務局、赤い羽根共同募金事務局

図1 山形市立第一小学校 学校運営協議会委員及び組織

※1 第一小学校ではPTAは奨学会という名称となっている

2

私たちが目指すもの

子ども・学校・地域が抱える課題解決のため、未来を担う子ども達の豊かな成長のために、「社会全体での教育実現」が大切です！

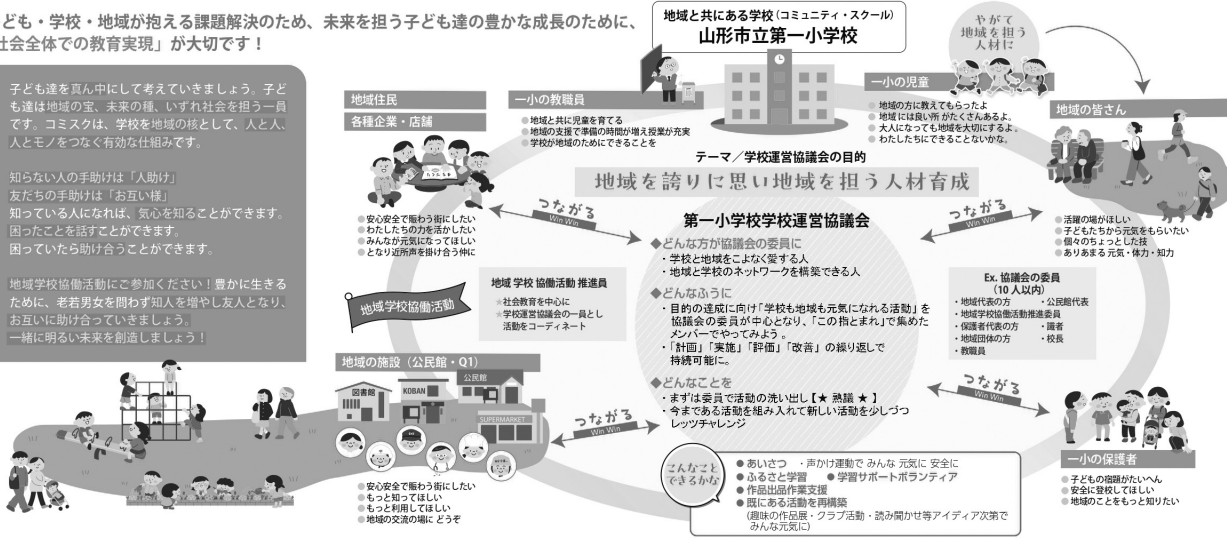
子ども達を真ん中にして考えていきましょう。子ども達は地域の宝、未来の種、いすれ社会を担う一員です。コミスクは、学校を地域の核として、人と人、人とモノをつなぐ有効な仕組みです。

知らない人の手助けは「人助け」
友だちの手助けは「お互い様」
知っている人になれば、気心を知ることができます。
困ったことを話すことができます。
困っていたら助け合うことができます。

地域学校協働活動にご参加ください！豊かな生きるために、老若男女を問わず知人を増やし友人となり、お互いに助け合っていきます。一緒に明るい未来を創造しましょう！

地域学校協働活動にご参加ください！豊かな生きるために、老若男女を問わず知人を増やし友人となり、お互いに助け合っていきます。一緒に明るい未来を創造しましょう！

コミュニティ・スクールのイメージ図



これまでの活動

令和3年度 いちサポ活動一覧

活動内容	対象	実施月・頻度
生活 日本遊び	1年生	1月下旬 2回
夏休み作品発送	先生	8月下旬 14時間
学校案内・質疑応答	新入学保護者	2月上旬
清掃活動	学校	2月下旬 2回
球技クラブ (Tボール)	4~6年	7月~11月 1回
生活 日本遊び	1年生	1月 2回
学校文庫届け	1年生	4月~3月
趣味の作品展 受付	地域	9月上旬
児童絵画提供		11月

令和4年度 いちサポ活動一覧

活動内容	対象	実施月・頻度
夏休み作品発送	先生	8月下旬 14時間
学校案内・質疑応答	新入学保護者	2月上旬
清掃活動	学校	2月下旬 2回
球技クラブ (Tボール)	4~6年	7月~11月 1回
生活 日本遊び	1年生	1月 2回
学校文庫届け	1年生	4月~3月
趣味の作品展 受付	地域	9月上旬
児童絵画提供		11月

令和5年度 いちサポ活動一覧

活動内容	対象	実施月・頻度
夏休み作品発送	先生	8月下旬 3時間
学校案内・質疑応答	新入学保護者	2月上旬
清掃活動	学校	2月下旬 2回
学校文庫届け	学校	4月~3月
趣味の作品展 受付	地域	9月上旬
豊別神社 神楽担手募集	地域	9月
児童絵画提供		11月
Q1 清掃活動		10月~2月 10回



図2 コミュニティ・スクールのイメージ図

2 活動の内容

では具体的な地域学校協働活動の内容を見ていこう。

(1) 登校時のあいさつ運動

月2回、学校周辺の3か所で行われているあいさつ運動に、近くに住んでいる地域住民が参加している。地域学校協働活動推進員によって地域に周知され、地域との協働の第一歩が踏み出されている。

(2) 朝の読み聞かせ (PTA母親委員会主催) へ地域住民が一部参加する

令和6年度から年間7回実施のうちの1回分を地域住民が担当している。近隣の住民であることや回数が少ないことによって、負担感のない学校支援が展開されている。

(3) 「第一小学校と第一地区をつなぐサポートチーム」(いちサポ)の事業(地域学校協働活動)

地域学校協働活動推進員が中心となってコーディネートしている事業である。

① ロング仲間見守りウォーキング

同校では、週2回の30分間の昼休み時間(通称 ロング仲間※2)での児童の見守り活動がある。これは単なる学校支援ではなく、参加する地域住民の健康づくりのためのウォーキング活動としても位置付けられている。支援する住民の側に立つ視点で活動の継続を保障し、地域づくりとして意味のある活動となっているユニークな試みである。この活動には地域住民や地域内に住む大学生など2023年度一年間で延べ97人が参加している。こうした事業はチラシの配布により、地域住民の誰もがアクセスできる仕組みとなっていることが特徴である。

② 夏休み中の児童作品を集約して発送する事業

夏休みの児童の絵画などの作品を公募団体に発送する作業。これは栃木県鹿沼市の団体のボランティア活動の事例を学んできたことから、学校に提案したものである。これまではこの作業を教員が個別に実施しており、大きな負担となっていた。担当教員と事前に相談し、丁寧に準備を進めたため、学校側からも好評である。

③ 例年2月に実施する新入学準備のための保護者説明会の際に学校施

※2 「ロング仲間見守り休み時間」の略称

設見学のガイドと学校生活へ個別の質問に対応する活動

これは自身の保護者としての経験を生かして企画したものである。

④毎年冬季に2回程度行われる校内の床のワックスがけなどの作業支援

新入学児童保護者説明会でも共有し、保護者や地域住民に案内して、円滑な作業の進行に貢献している。

⑤教員からの具体的な要望による地域人材・地域資源の紹介

ロング仲見守り活動で登校した際に先生が堀川さんに相談したことを契機にスタートした。教科指導や特別活動などでの地域人材を紹介するだけでなく、児童の体験活動の場の紹介（どんぐりや松ぼっくり拾い等）などの相談に対応している。逆に地域住民・企業が提供する素材や教材を各担任につなぐ役割も果たしている。

⑥いちサポキッズ

これまで、学校では地区内の関係者に対して通知文や学校からのお知らせなどを近所に住む児童に届けてもらう活動を継続しており、毎年40人程度の児童がその役割を果たしていた。これを校長から直接該当児童に委嘱状を交付する制度を提案し、実施されている。保護者としての経験の中から、校長から委嘱されるといふ体験を通じて、児童の意欲を引き出し、地域とのつながりを作り出す

事業となつている。手渡しをすることは、近所の人々と顔合わせの機会としても機能しており、結果として大人と子供のつながりづくりになっている。一つ一つの事業に地域づくりの魂がこめられているのを感じる活動である。

また、この他に地元の公民館で行われる地区の恒例事業「趣味の作品展」の受付や案内に児童が協力したり、地元の神社のみこしの担ぎ手の募集チラシ等を作成して学校で配付している。昨年度は、地区の商店街からの依頼に応じて児童の絵画の貸与をしているが、そのお礼として箒50本が提供され、学校が主体となり、その箒で児童による地区の公的施設の清掃も開始された。その後、施設で主催した餅つき大会に児童を招待するということに進展している。このように地域と子どもをつなぐ地域学校協働活動が展開されている。

⑦チームのシンボルマークとバッジ、通信の発行（図3、図4）

こうした活動を地域住民や児童と保護者に広く周知する方策として、チームのシンボルマークや通信が作成され、この活動が地域学校協働活動であることを周知している。このことよって児童の意欲を喚起するとともに、地域への周知に効果があ

げている。



図3 いちサポロゴ



図4 いちサポ通信

3 第一小学校の地域学校協働活動から学ぶこと

(1) 第一小学校の地域学校協働活動は、地域学校協働活動推進員のコーディネート力によって展開しているが、そのためには、地元を熟知した地元の自治推進委員長経験者であると同時に学童保育運営協議会会長を

努める地域リーダーが支えていることに注目したい。どれほど有能な地域学校協働活動推進員であっても地元で地域づくりを支えてきた経験者との丁寧なコミュニケーションを抜きにはこうした実践は広がりを持たない。このように、的確なコーディネートのみならず、運営協議会幹事会メンバーが共有する近所の人との元気なあいさつ、日ごろの丁寧な付き合い、メンバーを尊重する態度、ひんぱんに足を運ぶフットワークの良さ、多様な人々も排除せず包摂するという基本姿勢があればこそその実践であると堀川さんは語る。こうした良質な大人が地域の子どもたちに好ましい影響を与え、地域づくりの担い手を育成していくのであろう。

(2) 活動の随所にみられるのが、地域学校協働活動を単なる学校支援活動ととらえるのではなく、地域側にとっても意味のある活動（地域づくり）として活動をデザインし、位置づけていることである。児童の見守りを大人の健康づくりウォーキングⅡ社会教育にしていけることが地域学校協働であるといつて良い。地域づくりとは人のつながりをつくる活動である。こうした学校を媒介として地域の大人と子どもがつながる展開が地域学校協働活動の本質である。

(3) ロング仲見守りウォーキングや

各種の地域住民が参加する活動が住民の過重な負担にならないように細やかな配慮で地域活動へのハードルを下げている。地域学校協働活動は、学校教員の多忙化を解決することが目的ではない。地域の人のつながりを作り出すことによって、地域の状況をよりよく改善することにある。そのことによって、学校運営を円滑化し、学校課題の解決につながっていくのである。いわば、良い学校は良い地域にしかないということを伝えていく。そして良い地域にみられることは、近所の人々があいさつを交わし、一緒に行動する時間が多いということだ。山形市のような都市部だけではなく、県内には豊かな民俗芸能、お囃子、能、神楽、獅子踊り、芋煮会、寒鱈汁といった先祖が残してきた地域ごとの人のつながりがある。豊かな食文化や歴史的な民俗行事、公民館での直会など山形県ならではの人のつながりがある。こうした伝統を大切にしながら、人のつながりを紡ぎ出していくのが地域学校協働活動である。新しいことをすることではない。今までやってきたことを丁寧伝え、多くの人々が参加しやすくすることこそ、多様な主体の連携・協働に向かう。

(4) 前号で、現在実施している事業を「地域学校協働活動にする」と

いう視点を提示したが、第一小学校の地域学校協働活動は、まさに現在実施していることや先生たちのニーズを丁寧に拾い上げて、情報を提供している。コーディネートといっても地域の人材と担当教員が自分たちで自由に調整している。介入しすぎないことや先生たちの主体性を尊重した展開となっていることは注目される。

4 まとめ

地域学校協働活動にはマニュアルもモデルも存在しない。どこかの先進地と同じことはできないものが多い。ヒントになることや参考になることは多いが、モデルを提示して他の地域でも横展開するという安直な方法では地域づくりはできない。地域性や歴史、背景が異なるからである。また第一小学校のように意欲的な地域学校協働活動推進員がいれば上手くいくというものでもない。聴き取りを進めていくと、その推進員を支えるチームの存在が浮かび上がってくる。近年、学校教育でもチーム担任制という実践事例もみられるようになった。前号で紹介した日光市では、こうした実際に地域学校協

働活動を企画立案し、実施するチームのことを「地域学校協働本部」と呼ぶこととした。したがって、本部と言っても事務局が常置されているわけではない。この「本部」という言葉にはあたかも災害対策本部のように事務局・事務所が設置されるものと思ひ込む人々も多い。この場合、協議体（会議）を意味するものとして理解した方がよく、事業の必要に応じてメンバーも異なり、規模も異なるのである。第一小学校のように学校運営協議会の中に包摂されるように「本部」の存在も見えてくる。

本部という組織を立ち上げて事業を進めるのではない。事業が企画され、その実施に必要なメンバーのチームが実質的な「地域学校協働本部」なのである。その意味では、第一小学校の場合は本部機能が実質的に存在しているのである。したがって、地域学校協働活動推進員の手引きなど作成してもあまり意味はなさそうである。コーディネートの在り方は地域によって異なるだけでなく、年度によっても異なり、数年後は大きく変容することさえある。地域の状況に柔軟に対処していくことこそ必要である。マニュアルや手引に依存せず、変化に対応する姿を第一小学校の事例から読み取ることができ

「成」こそが地域学校協働活動推進員に必要なものである。2023年7月に亡くなった「やまびこ学校」で有名な無着成恭先生の言葉のごとく「ずぶんのあだまで考えろ」^{※3}ということなのであろうか。

廣瀬 隆人氏 プロフィール



専門は、地域づくり、地域学、学校と地域の連携、地域福祉、社会教育など。北海道生まれ。国立教育会館社会教育研修所専門職員、宇都宮大学教授などを歴任。宇都宮市在住。長年、山形県内の社会教育関係職員研修ほか様々な研修の講師を務める。山形県生涯学習センター「山形学」アドバイザー、山形県地域コミュニティ支援アドバイザー。

※3 (無着成恭氏の教え子の佐藤藤三郎氏の著書「ずぶんのあだまで考えろ 私が「やまびこ学校で」で学んだこと」2012年)

あなた やまがた たからびと

かとう ゆ み

加藤由美さん dance space 主宰(山形市)

interview

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー形式でご紹介します。今回は、子どもから高齢者まで、学校や福祉の場等にも活動の幅を広げ、コンテンポラリーダンサー兼振付師として表現活動や指導を行っている加藤由美さんにお話を伺います。



「年代や人に応じたその人にしかできない表現の作品づくりが振り付けだと思っんです。いつか、もの作りや絵を描いてる方と一緒にダンスを作ってみたい。作品がまた違ってくるんじゃないでしょうか!？」と、加藤さん。

—ダンスの道へ

私のダンスのスタートは9歳から習い始めたクラシックバレエでしたが、仙台の大学でフリースタイルなダンスに魅了され、ジャズダンスを始めました。大学の専攻は日本史でしたし、ダンスの指導者になろうと思っていたわけではなかったのですが、卒業して山形に戻った時に、先輩の教室のアシスタントとして指導者のスタートを切ることに。ダンスは憧れだけでは教えられないと気づき、東京のスタジオに通って様々なレッスンを受けることで自分なりの指導方法を見出していきました。その後、ダンス留学をきっかけに毎年のようにニューヨークに通い、いくつかのダンススクールで学ぶ中で、さらにフリーエイトップで自由に気持ちも意識も環境も表現できるような、コンテンポラリーダンスに出会いました。さらに、ロンドンで、ダンスセラピーにも出会い、身体と空間の

使い方や、人の特性が動きと感情と一緒に

た時に、その人だけの表現が出来上がることも学びました。ダンスに限らず、その土地の様々な文化をどんどん体に取り込んで吸収していきながら、形にとらわれずに身体を動かすこと自体が表現であるといった、今のダンススタイルが出来上がっていった感じです。

—山形での活動

海外で取り入れたことをレッスンでも教えたのですが、振り付けの模倣に慣れた生徒に「自由に踊ってみよう」と言っても、最初は自由に踊りませんでした。そこで、自由に踊ることとは？ダンスの根源とは？と、伝統的な表現を学び直しながら教えていきました。例えば、農耕の雨乞いや感謝の儀式としてのダンスは、生きるための踊りとしてのダンスが起源であること。振り付けを踊ることだけがダンスではないこと。手を上げるだけ、歩くだけ、瞬きをするだけでもダンスであること。皆さん戸惑いもありましたが、今は自分の自由な気持ちを表現することが楽しいようで、即興で踊れるようになってきています。実は2015年にスタジオを閉所したのですが、生徒に集まってもらうのではなく、私がいろんなところに出かけて行って、表現の大切さを伝えたいと思ったのが理由です。それからは、生徒と公民館で練習しつつ、田んぼで踊ったり、夜の文翔館でお月様を見ながら踊ったり、その場でその時しかできない作品をどんどん作っていきました。その他、福祉の現場では一人ひとり特性が違う方々にコミュニケーションダンスの指導をしたり、美術大学では身体と自分が扱う素材との向き合い方を意識でき

るように身体感覚の指導をしたり、小学校の先

生たちには一人ひとり違う子どもたちに想像力を持って指導してもらえよう「表現運動」の指導もしています。こうした活動では、どう導くとその人が表現しやすくなるか、その人らしさを引き出せるかを常に考えながら指導しています。

—これからの目標

一昨年に一般のシニアの方々を募って2年計画の公演を行いました。初年度に、私の手を見せて、この手のように年齢を重ねた身体の変化をありのまま隠さずに作品を作りたいと伝えました。年代なりの所作や背中丸み、膝が曲がった歩き方、その人が生きてきた証を集めてダンスにしていく。その2年間で、「ありのままの自分でいいんだ」といった、シニアダンサーの皆さんのいろいろな変化も感じてきました。表現を引き出された方は価値観も生活観も変わると思っています。だからこれからも、たくさんの人に出会って表現を引き出していきたいと思っています。

もちろん、自分もまだまだ踊り続けたいと思っています。私にとつてのコンテンポラリーダンスは、その場でその人の特徴でその時の感覚を即興で表現すること。特に大地のエネルギーが足の裏から身体に上がってくるのをすごく感じる世界遺産の地で踊りたいと思っています。



dance spaceホームページ

このまちに注目!

地域の取り組みを
紹介します

寒河江市

つや姫ヴィラージュ事務局
つや姫ヴィラージュ

『目指せ!日本一のブランド産地!』
きれいな「水」、「地」の力、「人」の交流』

■事業内容■

「つや姫団地化プロジェクト」として平成23年9月に始動し、統一した肥培管理などにより、高品質・良食米の安定生産を行うため寒河江市の古河江、北江地区の生産者13名と1法人により15haのつや姫栽培圃場を集積して



稲刈り杭掛け交流会



出発式(田植え)

「つや姫ヴィラージュ」の名前で開村を迎えました。

面積は、立ち上げ当初に目標としていた50haを達成し、51.7haまで拡大を実現しました。生産者の高齢化も見られる中で、地域の担い手がしっかりと「つや姫」の生産と農地の管理に取り組んでいます。

■ここが大変■

地域の方や近隣の小学校の児童を招いた体験型のイベントを開催しています。5月の出発式(田植え)や9月のかかし祭りなど、関心を持ってもらえるような内容を組織役員と意見を出し合いながら、継続できるように努めています。

■ここがうまくいった■

高品質・良食味米を生産するため土壤に適した肥料の開発と利用、無駄のない水管理など、米づくりの匠たちによる卓越した技術により、開村から12年連続1等米率100%を記録しました。

参加者Voice

コメを作るのは大変だと感じた。大好きなご飯を感謝して食べたい。(小学5年生・男子)

東根市

ボランティアサークル「3peace」

『私たちが広げる3つの「わ」』

■活動内容■

中高生ボランティアが身近にあるまちにすること、元気を届けること、また地域とつながり、多くの「環」「輪」「和」を広げていくことを目標に日々活動しています。今年度の主な活動は「子どもたちとのふれあい活動」、「想いのバトンをつなげよう」です。「子どもたちとのふれあい活動」では、中高生と関わる場をつくることで子どもたちにとって特別な思い出ができるよう、折り紙、鬼ごっこ、お絵かきなどを一緒にしています。「想いのバトンをつなげよう」では、地震の被災地の方々に向けた、応援メッセージ・励ましのメッセージを募集して、それを現地に送る予定です。

活動者Voice

たくさんの方と関わる事ができてとても楽しいです。自分たちで計画したボランティアも、依頼されたボランティアも、どれも楽しく、そして東根市に貢献しているというやりがいも感じています。これからも、東根市や他の地域にも活力や笑顔を増やせるような活動ができるよう頑張っていきたいです。(高校2年生・女子)

■ここが大変■

中学生のメンバーが少なくなってきたことが課題だと感じています。また、部活動などの関係で、活動に参加できるメンバーが少ない時が多いため、限られたメンバーでできることを調整しながら行うことが大変です。

■ここがうまくいった■

工夫していることは、関わる全ての人に優しく平等に接し、それぞれの考えをできるだけ尊重することです。「子どもたちとのふれあい活動」では、遊びに来てくれる子どもたちひとりひとりに寄り添い、やりたいことを尊重するように心がけ、心温まるようなふれあいや交流を目指しています。





文翔館・遊学館・洗心庵・ 教育資料館 4施設合同企画

4つの文化施設が集まる
「歴史文化ゾーン」を巡ってみませんか。

一般向け

スタンプラリー

期 間 11月3日(日・祝)～11月24日(日)
スタンプポイント 文翔館・遊学館・洗心庵・教育資料館
4つの施設のスタンプを集めた方へ素敵なプレゼント!

講演会「山形のまちとイザベラ・バード」 ～明治初期の「時間と空間」を共有しよう～

日 時 11月16日(土)13:30～
会 場 遊学館 第1研修室(入場無料)
講 師 渋谷 光夫 氏
申込み・問合せ 山形県生涯学習センター(下記へ)

特別展示「イザベラ・バードが見た山形のまち」

期 間 11月3日(日・祝)～11月24日(日)
場 所 山形県立図書館(遊学館)
1階 アートコーナー前・階段下

特別展示「イザベラ・バードが見た山形県師範学校」

期 間 11月3日(日・祝)～11月24日(日)
場 所 山形県立博物館教育資料館(入場無料)

特別展示 令和6年度文翔館収蔵品展 「岩松吉蔵コレクション明治の山形part1」

期 間 11月3日(日・祝)～11月24日(日)
場 所 文翔館2階ギャラリー

山形県地域づくり 実践交流集会

一般向け

関係者向け

県内の地域づくりや地域学の実践団体や関心のある方が集まり、より一層充実した活動を展開するために学び合います。今年度は“民俗芸能”をテーマに地域づくりを考えていきます。

民俗芸能に学ぶ地域づくり～人のつながりのつくり方～

日 時 12月8日(日)13:30～16:00
会 場 遊学館(山形市)
講 師 菊地和博氏
(東北文教大学人間科学部人間関係学科特任教授)
廣瀬隆人氏((一社)とちぎ市民協働研究会代表理事)
鮭川歌舞伎保存会
問 合 せ 山形県生涯学習センター(下記)へ

～洗心庵からのお知らせ～

庭園と抹茶を楽しむ会

一般向け

紅葉あざやかな季節、和室にて開催されるお茶会と庭園鑑賞の催しに参加しませんか。お茶の作法をご存じない方でも、お気軽にお申込みください。茶会後のガイドボランティア付き庭園鑑賞の時間は、20分程度の予定です。

日 時 11月30日(土)13:30～16:20
(定員28名・茶会は1回30分7名までの入替制)

会 場 洗心庵 和室

料 金 600円(菓子付)

申込期間 令和6年10月30日(水)～開催日まで
(事前申込が必要です)

問 合 せ 洗心庵(下記)へ

第11回洗心庵写真コンテスト

一般及び18歳以下

第11回洗心庵写真コンテストは、一般の部とU-18の部との2部構成で開催しています。春夏秋冬の四季ごとの選考となります。洗心庵での催しや人物、庭園の情景など写真に写してみませんか。スマートフォンで撮影した写真でも応募可能です。お気軽にご応募ください(入園・入館無料)。詳しくはQRコードよりご確認ください。



洗心庵
ホームページ

応募期間 11月1日(金)～令和7年1月31日(金)(当日必着)

テ ー マ 春夏秋冬の洗心庵

(洗心庵の庭園・建物内で撮影した作品)

応募規定 A4サイズ又は四ツ切のみ(組み写真は不可)

応募点数 一人一般の部2作品、U-18の部1作品

表彰式 令和7年3月中旬ごろ 洗心庵多目的ホールにて

問 合 せ 洗心庵(下記)へ

編 集 後 記 小中学校の授業ではダンスが必修になっていますね。私は小学生の頃に神楽や花笠音頭を踊った経験があるのみですが、10年前に盆踊りに夢中になり、たくさんの盆踊りに参加したことを思い出しました。盆踊りの一体感や高揚感はとても魅力的です。皆さんも機会がありましたら地域の盆踊りをはじめ、さまざまなダンス・踊りを体験してみたいかがででしょうか。(R)

🎁 読者プレゼント 🎁

「生涯学習やまがた」をご覧いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて、抽選で3名様へ遊学館ブックス最新刊「食」をめぐる山形の地域課題をプレゼント!左記の山形県生涯学習センター広報紙担当あてに【①お名前・ご住所②入手場所③興味を持たれた記事④内容についてのご感想・ご意見・ご要望】を添えて、はがき・メール・FAXでご応募ください!締め切りは12月末です。

「生涯学習やまがた」
バックナンバーはこちらから!



編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 令和6年11月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36 [遊学館]
TEL 023-625-6411 (貸館専用TEL 023-676-7182) FAX 023-625-6415
E-mail yama@gakushubunka.jp

URL <https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>

開館時間 9:00～21:00 [夜間利用が無い場合は20:00まで]

休館日 第1・3・5月曜日、第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041山形市緑町1-4-28
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

開館時間 9:00～21:00 [夜間利用が無い場合は19:00まで]

[12月1日～3月31日までは夜間利用が無い場合は17:00まで]

休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始